

太田東西かわら版

2019.9

信じる！信じ切る



8月18日（日）、世界文化遺産に登録された佐世保市黒島天主堂の大山繁神父をお招きして講演会を開催しました。

130名の薬局のお客様に参加していただきましたが、一番感動していた人は大山神父でした！（笑）

「老若男女、こんなに幅広く多くの方々が、しかもご家族連れで集まれるとはびっくりしました。日頃の太田様の一人一人を大事にし、我が身のようにご指導なさっている成果であると感激しました」

チョ～～お褒めのお手紙を大山神父から頂戴しました！！（涙）

もちろん、当日参加された皆さんの真剣に学ぶ姿勢にも感激されたということ。自分にもお客様にも誇りを持たせたイベントとなりました。

右が当日の内容。

今回、お客様といっしょに考え、これを一番習得してほしいと思ったテーマが

「信じる、信じ切ること」

「絶対うまくいく！」「大丈夫！大丈夫！」

そう信じる、信じ切れるためには
どうすればいいのか？

例えば、病気。

「この薬が効きますよ！」と言われた時に
信じる、信じ切れるか？

信じて、購入して1ヶ月続けた。

しかし、なかなか体調が良くなるしない・・・。処方医に尋ねてみた。

処方医は言った。「大丈夫、必ず治りますよ！」

いまだ改善の体感が得られない中で、それを信じる、信じ切れるか？

結婚（婚活）、妊娠（妊活）

「必ず素敵な出会いがありますよ！」「必ず授かりますよ！」

しかし婚活イベントに参加するも、なかなか出会いがない・・・。

食生活から冷え取りから真面目に取り組んでいるのに、今月も生理が来た・・・。

その現実でも、信じる、信じ切れるか？

子育て。

受験を控えているというのに、ゲームばかりして勉強しようとししない。

塾に行かせても成績は一向に上がらない・・・。太田先生から「やる気になるのを待ちましょう。お子さんのポテンシャルは高いから大丈夫！」

夏休み明けの試験も低迷・・・。それでも受験合格を信じる、信じ切れるか？

信じることができない人間に影のように付きまとうのが、**不安・心配・疑い・恐れ**。

信じる、信じ切れることを妨げるマイナス思考の主役です。

病気の原因は、これに**「怒り」**を合わせた感情だと言っても過言ではありません。

不安・心配・疑い・恐れを手放して安心感を得たいなら**「何かを信じる、信じ切るしかない」**のですが、それが人生で最も難しい・・・。

信じながら、一方では失敗・後悔・裏切りといった恐れを覚えるからです。

2019.8.18
誓って、祈って、愛を叶える会

プログラム

第1部 大山神父と太田東西の対談

- 1、「信じる」ことの難しさ
どうすれば「信じられる」か？
- 2、不安、心配、疑い、恐れといった
ネガティブ思考を、どうすれば
克服できるか？
- 3、聖書の有名な言葉を問う
「信じる者は救われる」
「求めよ、さらば与えられん」
「右の頬を打たれたら、左の頬も差し出せ」
「汝の敵を愛せよ」
- 4、宗教アレルギー・無神論者について

第2部 みんなで誓って祈る！
健康・人間関係・お金・出会い
子供・合格・仕事・生きがい

第3部 結婚更新式

第4部 アーシング健康法
「目に見えない」影響を捉える必要性

本日は、ありがとうございました

信じる、信じ切る。それが宗教であり、ほんとうの宗教の役割でしょう。
私が大山神父とのコラボ講演会を企画した動機でもあり、「信じる者は救われる」の真意を皆さんといっしょに“本物のプロ”から学びたかったからです。

このまま治らなかったら・・・？ このまま結婚できなかったら・・・？
このまま子宝に恵まれなかったら・・・？ 受験、全部失敗したら・・・？
そうした不安心配に対して、「大丈夫！」「なんとかなる！」「最善に落ち着く！」
ブレない堂々とした心境になるには、どうしたらいいのか？
大山神父にお尋ねしました。以下、回答の要約です。

人間は何のために生まれて生きているのかというと、人との出会いや幸せを手にしていくためである。その幸せを得ていく人生の中で、不安・心配・疑い・恐れという感情に見舞われる。ゆえに幸せを求めて生きていく限り、それは避けられない。一般的にネガティブ・マイナスと呼ばれるそうした思考を否定せず、むしろそれが“人間らしさ”だと考えてほしい。犬や猫など動物は今だけを生きている。彼らは明日のことや老後の生活など考えていない。未知の事に不安心配になるのは、むしろ真剣に生きていることの裏返し。ただ人は、一人では生きていけない。問題や困難を一人で抱え込まずに、「相談する」という姿勢からすべては変わる。自分の不安・心配・恐れをオープンにして他者とともに解決していく行動。そこから問題も不安も解消されていく。しかしそれができない人もいる。根底に人間不信がある場合が多い。特にそうした人たちのために宗教がある。目には見えないが絶対に自分を裏切らない存在。そこに祈りを捧げて、信じて頑張って生きていく。それが本来の信仰であり、解決のための努力をしない祈りは真の信仰ではない。人間は生きている限り、学んで成長して喜びを得る存在。その繰り返しの実践から自分を信じることができるようになる。他人と自分を比較するのではなく、自分は自分だと考えて、自分の心に正直に生きていく。その主体的で前向きな生き方の中で「きっと大丈夫！」と信じる、信じ切れるようになる。

「信じる者は救われる」という言葉は、周りを信じて理解していくことではじめて自分が救われていくということ。身近にはそれが家族であり、家族は他人の集まりの集合体であり、一人一人違う個性の集まりである。その家族が円満ということは家族を構成する人たちが、相手を理解しようと努力した結果である。家族であっても自分と相手の違いを認め、相手を尊重し、理解に努める。それがキリスト教で言う“愛”であり、今までの苦しみから自分が救われていくことにつながっていく。「求めよ、さらば与えられん」も同じ。ただ求める、欲望を満たすための祈りではなく、その成就のために頑張って生きていく。その頑張りに応じて返ってくる、つまり「与えられる」。明日がどうなるか、結果が得られるかは、今の自分の生き方の結果である。どんな家庭環境でも、まずは生まれたことに、生まれた自分に価値を覚え、すべてに感謝を忘れずに生きることから不安や恐れは消える。

どんなに強がっている人でも、どんなに無口で反応が鈍い人でも不安・心配・恐れというのは、必ず感じています。感じてなさそうでも、必ず。そうした自分の弱さを受け入れて、信頼できる人にその自分の弱さを露呈できる人は病気からも、貧困からも、泥沼の人間関係からも脱出できます。

今回のような薬局のイベントを「自分には関係ない」「宗教家の話なんか興味がない」「自分の家は仏教だから」「太田東西薬局、変な怪しい方向に向かっているんじゃない？」などと考えた人もいるかもしれません。

そんな人たちが苦難に陥った時、一転「困った時の神頼み」になり、必死で助けを求めようとする傾向があることをたくさん経験して来ました。

なんとかしてもらおうと医者にたくさん謝礼をしたり、あれが良い！これが良い！と耳にすれば、片っ端から取り寄せたり出向いたり・・・周りに翻弄され、身に迫った不安や恐れに耐えられず、まさに「藁をもすがる思い」になって狼狽する。

健康で円満で幸せに生きている人は、苦難に出会う前から、生きることに真剣です。人との出会いを大切に、常に人から学ぼうとする生き方をしています

一方、毎日必死で頑張っているのに幸せになれない人がいます。

“不幸の種”を持って頑張っているからです。

自分の種をよく観察せず、品種改良を心掛けず、目先の事しか見えていない。

だから自分では一生懸命頑張っているつもりでも、満足する結果が伴わないのです。

足りないことばかりに目が向き、それがまた目先の事ばかりに目が向き・・・という悪循環に陥っている。人に相談しようとしないう、聞く耳を持たない人間というのはよりよく生きることを学ぼうとしない人ですから、必然幸せにはなれない。

「何を食べようか？」「どれを買おうか？」「休日はどこに行こうか？」

もちろんそれはあって当然。しかし、それだけの繰り返しの生活では虚しくないか？

宗教観や死生観のない人生の終末に洪水のように襲いかかってくるもの、それこそが

「不安と恐れ」だと私は考えています。

不安と恐れに洪水に溺れないように元気なうちから、家族みんなですべて「**信じる、信じ切る心**」を養ってほしい。

太田東西薬局のお客様には全員、その時

満足と感謝でゴールしてほしい。

それが講演会を企画した私の願いです。

